

令和6年度 筑前町総合教育会議

1. 開催日時 令和6年12月20日(金) 15時30分～16時30分
2. 開催場所 筑前町役場本庁舎2階 庁議室
3. 出席者(出席者5名、欠席者1名)
 - ・町長 田頭 喜久己
 - ・教育長 宮崎 敏宏
 - ・教育長職務代理者 浦山 敏弘
 - ・教育委員 岡部 新吾
 - ・教育委員 東野 正美
4. 参加者
 - ・教育課長 宮崎 宣匡
 - ・指導主事 小川 由有
 - ・指導主事 宮崎 泰浩
 - ・教育課学校教育係長 小澤 雅之
 - ・生涯学習課長 小川 真一
 - ・生涯学習課課長補佐 田中 晴美
 - ・総務課長 古川 秀志
 - ・総務課 石井 智捷
5. 会議に付した事件
 - 不登校対策について(令和5年度より継続)
 - 学力向上施策について(令和5年度より継続)
6. 会議の経過
 - 別紙のとおり
7. 傍聴人
 - 0人
8. 議事録署名人の選任に関する事項
 - 浦山敏弘氏、岡部新吾氏を選任することを諮り、全員異議なくこれを承認した。

この議事録が正確であることを証します。

令和7年2月8日

議事録署名人 浦山 敏弘

議事録署名人 岡部 新吾

石井	時間になりましたので令和 6 年度筑前町総合教育会議を開会いたします。 本日、司会を務めます石井です。どうぞよろしくお願いします。 それでは次第に沿って進めさせていただきます。2 番町長挨拶、田頭町長お願いします。
田頭町長	皆さまこんにちは。今年も総合教育会議を持つことができた。 この会議の趣旨は、以前から言われていたとおり教育委員会教育教育関係と一般行政職行政部門が合同で会議をすることによって、教育問題を解決できることがあるのではないかと、むしろ解決すべきではないかと、そういったことで開かれた会議だと理解している。 この会議の中で生まれたものがある。 まず一つはアフタースクール。 アフタースクールはやはりこの会議の中で提案があり、協力して、そして具現化に向けて教育委員会がやっていただいたという経緯がある。 もう 1 点、非常に印象的なのはこども議会。 こども議会もやはりこの中で生まれてやっていこうと決定し、具現化を教育委員会でやっていただいたという経緯があり、ぜひこういった会議を意義あるものにして、子供たちの環境作りに何か役立つことができればと思う次第である。
石井	ありがとうございます。 それでは次第の 3 です。議事録署名人の選任要綱第 7 条に基づき会議録は公開することとされています。会議録署名人を浦山委員と岡部委員にお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。 (全員承諾) それでは続いて次第の 4 議題のほうに入ります。司会を田頭町長にお願いしております、よろしくお願いします。
田頭町長	それでは私の方で進行を務めたいと思いますので、よろしくお願いします。 議題を 2 点挙げている。 一点は不登校対策について、これは昨年度もしっかり協議があったが、その後の状況等々について報告を受けながら議論を深めたいと思っている。
宮崎教育長	町長、2 番からでよろしいか。
田頭町長	では順番を変えまして 2 番の学力向上の施策について説明を求める。
小川指導主事	学力向上の取り組みについては、全国学力学習状況調査の結果を踏

また各学校の取り組みについて、それから筑前町英語スピーチコンテストの取り組みについて、英検の結果について、アフタースクールについて、以上4点について報告。

本年度の全国学力学習状況調査の結果をもとに、それぞれの学校で分析を行い、様々な取り組みを行っている。教育委員会としてもその取り組みの進捗状況を確認するために、12月に各小学校を訪問して筑前町フォローアップ訪問を実施。また訪問時に校長先生が推薦する授業を参観した。本年度11月初めに各学校の学力向上コーディネーターと一緒に、愛知県春日井市の研究発表会に参加し、これから目指す新しい授業に、それぞれの先生方が刺激を受けた。これから目指す新しい授業とは、教師主体の授業から子供主体の授業への挑戦をするということ。それから、自分で選んで自分で決める場が設定された授業を作っていくということ。そこで、視察研修に参加したその先生方を中心に、まずは真似してやってみようということで授業を計画し実施した。今日はチャレンジした授業の様子を紹介する。

(映像)

これは中牟田小学校5年生の算数の授業で、円周は直径の何倍になるかを、身の回りのものを使って調べ、答えを見つけ出す授業。授業の最初に先生から簡単な説明があった後、30分間の活動は子供に委ねられ、自分でじっくり考える子、ペアやグループで実際に長さを測ったり、タブレットを見ながら説明し合ったりして答えを導き出す子、先生と一緒に考える子、自分が解決したい方法を選んで活動をしている。

これは三輪小学校5年生の算数の授業。子供たちは倍の計算の復習問題をタブレットの中や教科書の中から自分で選択し、問題を解いていく。タブレットの中には数種類の問題が配布されており、自分でレベルを選んだり苦手な問題から取り組んだり、自分が学びたい内容を選んで学習することができる。また、ノートを使うか、タブレットを使うかも任されており、自分が使いやすい方法を選んで問題を解いていた。右側の子供たちはペアになって、タブレットを使いながら解き方について説明をしあっていた。

(映像)

先ほど申し上げたように、ノートを使って勉強する子もいる一方で、このクラスでは90%がタブレットを使用して問題解決に取り組んでいるということであった。

最後に三輪中学校3年生の理科の授業。粒子モデルや化学反応式を用いて、説明できるようになるのがこの時間の子供たちのゴール。ど

んな方法で説明できるようになるかは子供たちに委ねられる。紙のワークシートの図を使って説明する子、タブレット状の粒子モデルを使って説明する子、粒子モデルのカードを使って説明する子、全員が何とか自分で説明できるよう試行錯誤しながら課題に取り組んでいた。理科が苦手な子はわかる子の説明をしっかりと聞いて、次は自分が説明できるようになろうと伝える友達を変えながら何回もチャレンジしていた。

(映像)

映像のとおり、30分間子供に任せたからといって、ぼーっとしていたりサボったりしたりする子は1人もおらず、むしろ子供たち1人1人が主人公となって、生き生きと活動している。このような授業に1人でも多くの先生がチャレンジできるよう取り組んでいく。

次に英語スピーチコンテストの取り組みについて。

本年度は筑前町代表で出場した三輪中3年多田さんが最優秀賞、夜須中3年の村上さんが優秀賞を勝ち取り、12月7日に行われた福岡県のスピーチコンテストに参加。県大会では各地区から代表者が集まり合計28名が出場。残念ながら入賞は逃しましたものの、2人はこの日までに100回以上の練習を積み重ねて参加をしており、コンテストに参加したことが、彼女たちの英語で自分の考えを伝える上での自信に繋がったのではないかと思います。

今年度は昨年度の課題を改善しようと、まずは県大会出場を目指して取り組み方を見直した。まずは各学校の授業の中で全員がスピーチを作成し選考会を行い、その後、代表者たちは各学校のALTと一緒に夏休みの練習会を行っている。スピーチ内容を改善したり、発音指導やパフォーマンス指導をしたりした。また、北筑後スピーチコンテスト出場者に向けては、昼休みに各学校訪問し、出場者に対して指導主事がスピーチ指導を行った。このように、学校だけでなく町全体で子供たちを支援しながら取り組んだことが結果に繋がった。

続いて現段階での中学校3年生の英検の結果について。

1、2年生は1月に実施予定。筑前町では中学校3年生で3級以上の取得を目指している。令和6年度三輪中学校3年生において、英検3級以上取得した生徒は全体の31%。夜須中学校3年生において、英検3級以上を取得した生徒は全体の46%。筑前町の中学校3年生全体では、令和5年度の29%から39%へと英検3級以上を取得した生徒の割

	合が増加。 アフタースクールについて。 参加者について、令和５年度と比較して、令和６年度１２月現在で、三輪中学校はプラス１９名、夜須中学校はプラス２９名となっている。来年度は、数学英語に加えて新しく英会話コースを新設する予定。中学校１年生から３年生までが対象で、週一度ネイティブとの英会話を行い、コミュニケーション力をつけていく。参加費は月１０００円。 以上で学力向上の取り組みの説明は終了。
田頭町長	はい。昨年度との比較を含めて説明がありました。 行政の方は私だけしか発言権がないため、教育委員の方々も今の説明について、考えやご意見などございましたら出していただきたい。私からいいでしょうか。一つは新しい授業に取り組まれた、子供たち主体の授業をやっていこうと。これは授業時間がプラスしたのか、それとも従来の何かを削減しながらこれを組み入れたということなのか。
小川指導主事	時間を増やしているということではない。これまでの授業を改善していくという取り組みで、まだ始まったばかりであるため今日見ていただいた一例はモデルになるような授業であり、これから町の先生方がこれを目指してやっていくというところ。
田頭町長	となると去年との比較になると、それはいつ研修をされて、７年度に具体的なものに進めていくというような考え方なのか。６年度でしっかり議論を重ねて７年度には普及に入るという考えでいいのか。
小川指導主事	そういうつもりで進めていきたいと考えている。
田頭町長	もう１点、この制度が学力向上、ペーパーの方にどのように反映されてくるのか。
小川指導主事	これを先進的に行ってる県内の視察をしてきたが、まだ結果というところでは目には見えてきていないとのこと。ただ、視察先の方は、これから子供たちに必要な、学力というよりも社会で生き抜く力というのをこの授業の中で身につけていくのが大きな目標で、「学び方を学ぶ」であるとかそういうことを強くおっしゃっていた。
田頭町長	社会全体が高校大学も含めてそういった方向に進んでいるということであって、それに歩調を合わせる、あるいは先駆的な取り組みをするということなのか。やはり高校大学のテストというの、そういった方向で進んでいくから学力テストと合致するんだという考え方でいいのか。

小川指導主事	大学の授業も変わりつつあるというのを聞いている。先が読めない時代であり、自分で選択して自分で決めて自分で何かを生み出すという力が求められるため、高校大学もそのような力をつけるということに向かって今動いていると思う。
田頭町長	結局高校大学もそのような方向でいくと、そして今習ったものをより活かすためには、そのような大学に進学することによってより自分たちのものが活かせると。そのためにやはり高校大学に通らないといけない、そういったことで進学がどうしても避けて通れない今の日本の仕組みであるから、それについても受験対策にもなりうるとそのように理解して良いか。
小川指導主事	ただ、それを発揮するにはやっぱり高校大学に行った方がいいと、そういった現実問題があるから、そこは保護者にその説明をしないとやはり塾に行ってしまうのではないかと思う。その辺もそのように進んでいると、だから学力テストのアップも同時に表れてくるような仕組みであると、そのように理解して良いか。
小川指導主事	そのようにしていきたい。
田頭町長	崇高な目的を持って現実的なハードルを超さないことには到達ができないだろうと思う。
小川指導主事	今見せた授業を毎時関するということではない。子供たちに委ねる授業、それから知識技能をしっかり身につける授業というのは分けて考えていきたいと考えている。
田頭町長	これは筑前町の一つのオリジナル的な授業になるのか。
小川指導主事	オリジナルというか一つの方向性ではある。
田頭町長	教育委員の皆さんはどうか。
東野委員	オリジナルというよりも今までも、子供主体の授業でいこう、子供に選ばせ子供に判断させ、そういうふうに授業感を変えていこうというのはもう平成の時代からずっと言われてきたこと。でも本当にそうやってきたのかということが今教育課題として挙がっているし、昭和の授業もまだ残って、受身の授業の中で何か先生の話聞いてノートに書いているというような実態もありながら、そこに誘うということで教育委員会で今回の県外研修も昨年に続き今年度も各学校から先生が行ったというのは、すごく大きなことなんだと思う。そこで自分たちでこういう授業を作ろう、そしてこういうモデルの授業を作ったってというのは、私は令和の授業は変わってくるのではないかと思う。同時に、先日三輪中学校発表会の際、三輪中学校では、後の研究協議に代表者ではあるが生徒を入れて生徒に今日の授業はどうだったか、今

	日どんなことが自分たちで学べたかというのを最初に発表していた。そのときに 1 人が、友達といろいろ話してそこで見出したのが楽しかったと。当たり前だが、私たちはその当たり前その言葉の重みに気づかなければいけない、そういうふうに授業を変えていくことが、将来、進学もあるが起業していく子供も今後増えていくかもしれない、そんなときに何か自分で考えることも、何か切り開くことも、そういったところに繋がっていくと信じてやりたいと思う。
田頭町長	今からの時代は特に、クリエイティブな子供たちをたくさん作らなくてはならないだろう。そのための一つの改善的な取り組みをやっていくと、先生自らがそれに気づいたと、気づいたというか新しい研修を自ら求めていったと、そのことが大きい。やはりそういったものの繰り返し以外教育なんてないのだろうと思う。そういったことで絶えず新しい教育に向かって日本中がそういった方向に一応向かっているのだろう。そういったことが進んでいるところが春日井市であったということでしょう。
宮崎教育長	今までも東野委員がおっしゃったような方向性はずっとあったものの、今回 1 人 1 台タブレットが入った、これで劇的に変えようという動きが今までよりも加速していったそれに今、春日井市が飛びついたというところだと思うので、うちも負けないように。
田頭町長	真似することも大事。春日井市まで行ってというのはお金もかかって行っているわけだが、何人ぐらい行ったのか。
小川指導主事	各学校から 1 名、教育課も合わせて 10 名。
田頭町長	私も秋田県の方に一度行ったが、非常に説明する方が親切・熱心であった。あそこは学力レベルが高いということで首長全部で七、八人で行ったが、懇切丁寧に教えてくれて、教育でしっかりまち作りということではないけれど、やっているなということを感じた。塾もあまりなかったし、そういったところで学力は全国トップレベルと、我々は比較するのはどうしても他との比較で、それか自分自身の去年との比較なので、そういったふうに比較することも大事だろうと思っているのでぜひよろしくお願いいたします。 それでは、もう一つの英語スピーチ、英語力を高めようというもの。これはもう全国的にやっていてうちも負けじと頑張っているところであるが、英検 3 級の取得率、これはどのように高いのか低いのかは判断すればいいのか。去年よりも上がってるのよくわかる。ただ県下ではどのようなレベルなのか、そこもやっぱり保護者的には知りたいなど。県でも全国でもわかれば。

小川指導主事	県で皆さんが英検を受けているわけではないので、受けてる学校だけしか比較のしようがない。
宮崎教育長	全町でしてるのは県下ではおそらくうちだけ。
田頭町長	うちの場合は全生徒で、よそはやりたい人だけ受けるから合格率は高いか。
宮崎教育長	測れない。福岡県で簡易版の英検はしているが、それを見てもうちは高い方だと思う。
田頭町長	3 級以上 4 割というのは極めて高いだろうという察しはできるわけか。
小川指導主事	今町では 5 割を目指しているのもので昨年よりは近づいてきているのではないかと。
田頭町長	5 割の目標値は極めて高い目標だろう。よその町、よその学校がどうしてるかわからないが、どこでも今英語英語と言って、保育園から英語を教えるところもあるぐらいで、間違いなくうちのレベルは上がったと。ということは言えるのだろう。 堂々と言うべきところは言っていこうと思っていて、自信を持つことも大事なことではあるので。
浦山委員	来年から使う中学校の英語の教科書の選定を今年やった際、教育長に質問したが、英語の文が英会話中心のテキストで、大学受験とか経験してきているので長文とか対応できるのかというのが疑問で質問したが、結局文科省が検定した教科書がそういうふうにな変わってきてるようである。だから当然それに対応して試験の方も変わっていくという意味合いだと思うけれども、少し心配な部分で、しつこく、これで大丈夫かと質問した。というのも、受験の経験で長文 2 問とかあって、普通の物語を読まなければいけないような設問が実際に大学入試では今あってるので、それも変わっていくのかなと思っている。
田頭町長	やはり両方合わせていかないと現実的な問題もあるでしょうから、ただ流れが間違いなく英会話中心で、話せない子が多いのが現実でしょうから、そこに流れがいつてるということは全て英語関係では言えるのだろう。
浦山委員	実際外国に行って使うときは聞き取り、リーディングかヒアリングができれば、あとは今小川先生の方で進めてある英単語を並べるだけで実際は通じるというか使える。英単語を知らないことにはどうしようもない。
田頭町長	ただ、いまから学問を究めていこうとか、企業に就職しようとか、ある程度の企業は英語オンリーとかそういったことで社会が動いてると

	いうことは事実。そういったところはやはり基礎英語+英会話ということになるのだろう。その間を、小中学校でどちらにしようかと、そういった語学力に中心やったけども、それがいくらか英会話が中心になっていくということなのだろう。我々はわからないがある程度の大学や大学院なんかの論文あたりも英語が多いらしい。そういった面で英語に力を入れなければいけないというのはやはり流れだと思しますので、ぜひ英語に力を入れてやっていただきたい。 スピーチコンテストをやることによって生徒たちにどういった効果が出てきたか。
小川指導主事	スピーチコンテストは以前から取り組んでいるが、やはり一部の子のためのスピーチコンテストではなく、全員が経験をして、自分の考えを英語で伝えるという力をつけるというところから、全員で取り組むということはこだわっていきたいと思う。
田頭町長	今年はスピーチコンテストに行けなかったが、2回ぐらい参加して、非常に学校差があるなとある面では思ったが、その辺はどのように分析しているのか。先生がどうこうではないが。
小川指導主事	確かに担当者の取り組み方はあると思うが、今年はそれがないように、特に小学校はALT両方常時配置しており、夏休みの練習会をしたことで、どちらも同じような技能、表現力、内容を担保することが彼女たちはできたのではないかと思います。
田頭町長	北九州の英語村やAPU、回数が少なく本当に刺激や実力に繋がるのかと心配するところもあるが、あちらの方に行くことによって関心は高まったと思うが、その辺はどうか。
小川指導主事	今APUに行っている事業はもうないが、今年度も小学校中学校とも4人に1人程度の留学生が各学校に1日来て交流活動を行っている。やはり実際に英語を喋るという機会が設けられると子供たちは何とかして伝えようとするし、これがきっかけでもっと英語頑張りたいという子もいると思う。
田頭町長	動機付けにはなるだろうけど、本当に実力まで至るにはやはり練習ではないか。けれどもその辺を個人で子供たちが勉強してくれればいいけど、少し動機付けは頑張らないといけないと思う。それから先の繋がりがというところは稽古ごとの基本だと思う。
小川指導主事	使うということに限るので英語は。そういう機会があればどんどん話させていきたいなとは思っている。
田頭町長	それと我々から見るとALTの活用、報酬も町の方で支払っているがALTの方もあれだけの報酬ではなかなか不足だろうと思う。

	そのため、うまく活用する方法というのは提案していただければ相談に乗れることもあるのではないかと。ALT はアルバイトなど他にも兼業で副業を持っているのか。
小川指導主事	持っている方もいらっしゃると思う。その一つで、先ほどお伝えしたアルタースクールの英会話コース、これについては町の ALT に講習をしていただけるようお願いをしている。
田頭町長	であればこちらはまた別途報酬が支払われるんですね。今アフタースクールに参加している子供の割合はどれぐらいか。
小川指導主事	今年度は英語と数学になっておりますので、各中学校、そして学年ごとの人数は 12 月の時点で三輪中学校が 64 名。20%弱。
田頭町長	この 20%というのは学力的に高い人が来ているのか、それともまんべんなく来ているのか。
小川指導主事	一概に言えない。
田頭町長	塾についてはいろいろな意見があると思うが、少なくとも筑前町は塾環境にあまり恵まれていない。だからそれをどうカバーするかという意味合いもあってアフタースクールが出来た一因だと思うが、それはやはりもう少し勉強したいけど時間がないからということで、これに來ているという人もいるだろうし、併せて他の塾に行ってる人もいるだろうか。 公がこういった分野に行って関わっていけば、どうしても生活指導までセットではないかという保護者の思いが出てくるのではと思うが、どのような実態なのか。
小川指導主事	人が集まるため必ずトラブルは起こるもので、連絡があったり、または保護者の方から相談があったりということはある。町の担当が学校に出向いて聞き取りをしたり、あとは学校の先生に 1 人お願いしたりということで、学校と連携をしながら生徒指導面も毎回解決しながら進んでいるというところ。
田頭町長	やはり普通の塾であれば月謝も高いんだろうが、あまり生活指導まで入らないのではないかと思う。それが公立であるがゆえに、そういった方面まで入ってエネルギーがそちらの方にかなり消費させられて負担になってきたりして、本来のアフタースクールの趣旨から外れていくとか、そういった面はないか。
小川指導主事	入塾前に必ず説明会があり、このアフタースクールのルールを守ってみんなが安心して気持ちよく勉強ができるようにということは保護者にも子供にも伝えている。
田頭町長	その辺が昼間と夜の違いなのだろう。昼間はやはり義務教育である

	から、全て出て行って通学の責任もあると。ただアフタースクールは通学についてはもうそこまでの責務を負わないということ、ルールが守れないことが続くのであれば、やめていただくということも言えるということか。やはり効果のほどは先生方も認め、昼間の先生方との何かコンタクトとか情報交換とか何かあるのか。
小川指導主事	直接顔を合わせての情報交換というのはないがこれも学校にお願いして、教育課だけでは解決できない問題もあるため、先生方の力を貸してくださいということで何かあれば快く対応いただいている。
田頭町長	あくまでアフタースクールというのは昼間の授業の補完ではないと、あくまで主体性を持った夜の独立した勉強をするんだという理解で良いか。
小川指導主事	学校の定期テストに合わせたテスト対策であるとか、英検が近づいてきたら英検対策であるとか、そこはリンクしてやっている。
田頭町長	この数年の流れ、要するに単年度でここ 5 年ぐらいを比較すると、流れで見てやはりうちの町の教育水準学力向上、あるいは新たなそういった指導体制等は前進していると言えるのだろうか。
小川指導主事	環境面では前進しているといえる。
田頭町長	ただその学年によってデコボコがあったり、波があったりということとはよく耳にするが、それはありながらもやはりある程度は前進していると。やはりそういったことを数値で表すとすれば、どうしても学力テストを保護者は見がち。いくら立派な事言っても数値が下がっていればやはり何か問題があるのではないかという捉え方をするのが普通だろう。そのため、その辺で説明できるようなグラフができているということで考えていいのですね。わかりました。
浦山委員	この前教育委員会の中でも授業力という言葉を使ったが、学校訪問を実施して、先生方のレベルが上がってきてるのは間違いない。それを肌で感じた。学校訪問 3 年目だがそれを今年度は非常に感じた。だから、あとはそのとき委員会でも言ったが結果がどう出るかである。
東野委員	例えば、委員会の方で月に 1 回特別支援コーディネーターの先生方を集めて研修会をしていただいて、そこで各学校の課題を持ち寄ってまた各学校に下ろしていくというシステムを作ってくださったり、聞けば ALT の先生方のそういう機会も作っていただいている。以前はそういうのがなく単独でやっていたから、ALT の方は本当にいろいろな方がいて現場が疲弊することもある。でもこの前スピーチコンテストに参加させていただき、私はスピーチコンテストは最初の 1 年目参加し、そしてこの前久しぶりに参加させていただき、ALT の先生

	方もバンバンも前に出てお互いにコミュニケーションを取ってやってくださる。あれは多分関係性がいいからだろうと、ALT 同士も、委員会も、子供たちとも、その関係性があるから ALT の方があんなにやってくださる。やってくださるということは授業の中でも好循環を生んでいるんだろうと思い、本当に教育課と学校の先生方とがうまく回っていると感じる。 そういったところがやはり今浦山委員が肌で感じると言われたけど、授業力の向上に繋がってるのかなと。もちろん課題は課題としてあるが全体としてはいい循環で回っているのではないかと私も感じる。
岡部委員	私も学校訪問行かせてもらっていて、私達の時代のガヤガヤは、先生がうるさい、黙れというガヤガヤであったが、今の子供たちのガヤガヤは本当に勉強し合ってる話だった。だから今の子は羨ましいなととても思います。昔は、教科書開いて、うるさいぞ黙れと言われてたのが、本当にみんな楽しそうに授業が行われて、そういう授業が、この間の春日井の研修に行った先生たちが非常に刺激を受けて、学校全体に広げようとしているのを見て、一回先生がみんなで行けばと思うくらい行った先生方が頑張られているので何かもっと大きい輪になればなと思う。
田頭町長	私はずっとこの町にいるものですから、班学習というのがありましたよね。あれは考え発想的には同じではないかと思うところがある。ところが実態としてはワイワイガヤガヤの何か集中できないような雰囲気できてしまった、先生方は放任ではないけれども放任に見えるような形になったと、そういった危険性も一つ持っているのではなからうかと思う。 確かに班学習も真剣にあれをやれば、それなりに成果が出てくる仕組みではないかと私は思ったが、どうもあの班学習がある面では何か放任的になって結果的に学力が低下してきたと、そういったふうな流れは私も聞いたことがあるなと思っている。そのため、班学習はこの辺の独特の学習方法だったらしい。狙いとしては素晴らしいと思ったが、実際はそのとおりにになっていない。学校の先生方のリーダーシップ、雰囲気作りというのはあると思う。その辺は我々は直接接したわけではないが話は聞いていた。 班学習とはまた違うと考えていいのだろうか。あれはいろいろ善し悪しがあるような話を聞いて、私も見に行ったがみんながガヤガヤガヤ騒いでいるだけ。自発的に成績の良い子が悪い子を教えると、非常

	に立派な仕組みではあると思ったが、実態が、どうも良い子は自分が勉強する時間が全くないから、だんだんだんだんレベルが下がってきて、良い子まで少し引き下げられるような感じになっているという話を聞いた。そういったことではなく、やはり班学習の反省に立ってやるべきなのだろうと思う。
東野委員	今町長が言われたように、班学習も最初の理念というのはみんなで学力を上げようという理念で当時の先生方やられたのだろうと思う。その形だけが残って魂が抜かれ、ワイワイガヤガヤが本当にワイワイガヤガヤになったと私は受け取った。なのでやはり今やっているのも、岡部委員が言われたように本当に子供たちの今のワイワイガヤガヤは目的に向かっていっているワイワイガヤガヤなのか、本当にただやっているだけかは教師がちゃんと見極めないと、そういう危険性はやはりあるなと今話を聞いて改めて思った。
田頭町長	やはりいろいろな教え方があるのだろうと思う。全く逆の方向だった子供たちが伸びるためにやったことで、スパルタ式にやる方だったのだろうけど今の流れに合わない。しかし丸投げではまたいけない。そこに教師とか関係者がどう関わっていくかっていうとやはりその教室の雰囲気作りでしようね。その辺はまさにマンパワーというか先生方の力量によるのかもしれないけれど。そういった意見も、班学習の話は最近あまり出てこないが、私はそのイメージが浮かんだったのでぜひよろしくお願いしたい。 それでは、2 番目のいじめ不登校の対策について、実態なり対策なりの説明をお願いしたい。
宮崎指導主事	では総合対策状況と対策について私から説明いたします。 画面は 11 月時点における学年別の不登校児童生徒数を示したもの。年度ごとに色分けをしている。総数で見ると、令和 3 年度が 75、令和 4 年度が 91、令和 5 年度は 100、令和 6 年は 127。総数が増加している状況である。 特に小学校では 4 年生と 5 年生が多い状況。中学校では 1 年生、2 年生の増加がみられる。学校は 1 人 1 人の児童生徒に対してきめ細かな支援を行っているが、担任の力だけでは学校復帰、教室復帰が困難な児童生徒が増えてきているというのが現状である。そのような状況に対応するための筑前町教育支援センターネットワークについて説明をします。 画面と同じ資料を別紙でお配りしています。 現在、町の教育支援センターいそどりには、小中学生合わせて 28 人

	の子供たちが自分のペースで通いながら自分のペースで学習を進めている。また、本年度より各中学校に校内支援センターを立ち上げ、現在それぞれの中学校に 20 名程度の生徒が在籍している。年度当初予想していたように、中学生の希望者が増加していることに加え、小学校でも、教室には入れないが別室では勉強ができるという子供たちが少しずつ増えてきてる。そこで、令和 7 年度より小学校にも校内教育支援センターを設置し、2 人のマネージャーが 4 小学校を巡回して子供たちを支援していくネットワークを作ろうと考えている。町の全ての学校で教室に入れられない子供の学びの保障と居場所作りを行っていこうと考えている。
田頭町長	127 名ですか。これは全体の割合で言えばどれぐらいなのか。これは小中学校全体か。
宮崎指導主事	小学校の合計が 46、中学校が 81、合わせて 127。
田頭町長	これは他の地区、全国的全県的の割合から見てどうか。
宮崎指導主事	他の市町村の具体的な数は情報としては持っていないが、聞いた話でいくと筑前町は決して少なくはない。
田頭町長	少なくはないんですね。こういう話で平均というのもおかしな話かもしれないが。
宮崎教育長	全国的に言えば 10 人に 1 人と言われて 1 割と言う。
田頭町長	うちの場合は中学生が 81 で、全校生徒が 810 人おって 1 割だが、全校で中学生何人か。
小川指導主事	2 校あわせて 800 人。
田頭町長	田舎だから都会だからということがあるのかわからないが、1 割というのは地域性からすれば割と高いと考えた方がいいのだろう。 その辺の要因というのは何だと考えるか。色々なステージがあって調査の方もいろいろあるとは思いますが、例えば保健室止まりとか家庭止まりとか、いろんなステージがあると聞いたけれども、それまで入れて 81 名ということで良いか。これが毎年うちの方も増えてきていると。こういった中にはやはりいじめの問題とかも含まれるのか。いじめによって不登校がちになるとか。いじめというのは定義があって今なかなか難しいが。
宮崎指導主事	きっかけになっている場合はもちろんあると思われる。ただ、解決ができたから復帰できるというのは一概には言えないところがある。
田頭町長	今一生懸命町なり教育委員会でやってるのはその対症療法だろう。不登校になった人たちをどうカバーしていくかということでやっているのだろうと思う。理想だが、やはり根本的なものの解決の何かがあ

	れば、そこに注力するというのは極めて重要だろうと思う。 こういった子供たちが勉強かなにか一生懸命やっていれば、そういった不登校も少なくなるとか、私も子供たちとつながりがあったもので、一生懸命剣道をやりだすとよく出てくるようになるというか、そういった傾向もあるのだろうとは思っているので、何かそういった根本的なものを、それはもうその学校の先生に委ねるしかないけれど、そういったところは感じられないか。 例えばこのクラスにおいては不登校率が高いとか、このクラスにおいてはそこまでないとかそういった傾向はないか。
宮崎指導主事	環境というのは一つその子が登校できるとか、教室に入る上で大きな要因だろうと思う。そこで校内支援センターを今年度各中学校に作ったことによって、昨年度は 179 日間欠席をしている生徒が、今回校内支援センターができたことによって、自分はここなら勉強ができる一生懸命学校生活が送れるということで、その生徒は今年度 11 日しか欠席をしていない。その環境があることによってその子の学びの保障と居場所があるという部分で、来年度は小学校の方にも広げていければと思う。
田頭町長	それはもう確かに対処療法やってそれで改善したという良い事例だと思う。これはもうどこの職場でも今多くて、役場でもうつ病になるなどは起きている。ある一定割合はどこでも組織においてはいるということだが、何か根本的なことができればいいのではないか、そこにも注力していくと、対処療法は対処療法できちっとやっていくというところは、やっぱりあるのではないかと私は思っている。家庭環境が悪いとかいろいろ問題はあがる。
小川指導主事	今、大学教授の方からアドバイスを受けながら、グレーゾーンというか、もうすこしで 30 日を超える子供たちに対して、そうならないようにこの子たちにどういうふうにアプローチをしていくかというところをずいぶん研究されて助言もいただいているので、そこも学校にも呼びかけながら対応している。
田頭町長	古い考えかもしれないけれど、例えばクラスマッチを全員で頑張るぞと、そういった雰囲気の中ではそういった子もみんなフォローしていくというか、そんなのが私の集団にはあった。やはり試合を目標に頑張るぞとか、その辺のクラスの雰囲気というのは大きいだろっと思ってるところではある。学校が楽しければ少々無理したって行くだろっし、面白くなければ何とかこじつけるだろっしその辺は難しいけれどもやはりそこなのではないかと。だから正直に言ってもらいたい、

	クラスによって不登校率が違うのではないか。そうでもないのか。
宮崎指導主事	学級ごとのデータまでは出してはいないです。
田頭町長	それはデータとして公表しなくても出すべきではないか。そこで原因をきちっと率直に言っていく。本当に子供のことを考えればこういうことが大事なのではないか。
宮崎指導主事	受けてきた研修では、もちろんそういった学級の環境、雰囲気も含めたところも大事にしているんだけど、それでもっていう子が最近とても増えてきている、それで権利っていう言葉を今日大学の先生が言われたんですけども、子供たちは教育を受ける権利がある。一方でここで勉強することは難しいということ、NO と言える権利もあるということ言われていた。その権利を保障するためのこの校内支援センターであるということである。
田頭町長	となれば、極端に言えば 1 人についてマンツーマンで指導しなければならぬような環境だって必要になってくる。流れがそういった方向にいったことはわかるが、本当にそれが現実的にトータル的にできるのかと思う。ただ私が言ってるのは、ある一定数はどこでもいる。10%いるなら 5%はそういったふうだろうと、ただ 5%ぐらいはできることがあるのではないだろうかと思うところ。それはまさに雰囲気だろうと。指導方法は我々素人だからわからないが、子供たちの雰囲気作るのは昔と違って困難だろうけれども、その辺に何か原因があるとすればそちらの方向性の改善点もあるのでは。こんなに毎年このペースで増えていけば大変なことになる。そんな子も今はきちっと受験はできて試験さえ通れば、高校大学に行けるという社会ではあるが、そういった人たちが社会に出たときに、やはり同じような傾向が現れる。だから我々もいつも職員採用で悩んでいる。ということでやはり根本的なものを本当に教育ならばやっていかなければいけない。ただあまりするとパワハラと言われるのが難しいところ。でもやはりこの 10%を 8%に抑えていくような努力をしなければならぬだろう。10%を少なくするような何か手立て、少ないクラスがあるならばそこに学ぶしかないだろう。 春日井市はそういったことはやってなかったか。
小川指導主事	そのときはそれは見るができなかった。
田頭町長	やはり学力が良かったらそれが少なくなるとか何かそういった相関関係が出てくるとかがあるのではないかと思う。何か物事に熱中しているときは、どうしても体質的に生理的に不愉快な人たちはいますけども、ある程度の人たちはそれを乗り越えるというか、かえって良くな

	っていくというか、そういったものもあるんじゃないかと思う。ただ我々が現場で指導してるわけではないからその困難性はよくわからないけれども、その傾向があるということは客観的に物事を見るべきだろうと思う。 このまま増えていくと大変なことになるだろう、10が12に、12が14になったら教室だけでも足りなくなるだろうし、現実的に教職員も不足だろうし。私の考えが案外住民の方に近いと思う。 いろんな先生、考え方があると思うが、私のような考え方がかなり多いんじゃないかと思う。 それがこの教育会議のいいところであるから、こういった意見もあるということを見極めながら、何か根幹的なことに取り組んで、行政も悪いのは十分我々も認識しております。家庭環境が悪いと言われれば、一般行政の責任でもあるし。 今のが不登校で、いじめの分野はどうか。
宮崎指導主事	いじめの現状については本日の資料は用意していないが、いじめの認知件数は、現在増えてきているという分析状況である。それは学校が見逃さずに、きちんと受け止めて、解消に向けて取り組んでいる数値の表れだということで教育委員会にも伝えている。こんなことが起きた、そしてこういう指導をしているというやり取りがどの学校でも行われており、それを続けていくことでいじめを見逃さない。なくすではなくいじめに遭っている子をいじめから救うという取り組みを今後も続けていきたいと思っている。
田頭町長	いじめ問題は大変難しく、なかなか学校だけでは解決できない問題は町長部局の方にも話があり、こないだも首長間で話したが正直言ってどのように対応していいか我々もよくわからない。学校で解決できない問題が何でうちで解決できるのかということが基本的にあるものの、それでも教育が動きにくいならうちが動いた方がいいんじゃないかと、そういった意見も出てきますのでぜひ我々も活用していただき。
浦山委員	いじめ問題に関しては、実は寝屋川モデルというのがあって、寝屋川市では市長部局の方に監察課というのがあり、そこでいじめ問題を人権問題という一つのとらえ方をして、物理的ないじめをやめさせるとかいうのはその課が受け持って、教育的な配慮を要するところは教育委員会に対応しているというふうな例もある。これが広まるかどうかかわからないが、今町長部局の方でそういうふうな部局を作れるのか。
田頭町長	それはないと思うが、本当にそれが重要な課題ならば重点的に取り

	組むべきだろうと思う。
浦山委員	というのが、先生たちの負担を少しでも、働き方改革とか言いながら言葉だけが走って、肝心なところでは行政部局の方から全然援助がないということは、非常に苦しいと思います教育委員会。
田頭町長	そうですね、一般社会でも差別事案は絶えず起こっている。 それに対応するだけでも 3 万人いますから、それにかなり職員も慣れて、我々一般職員も慣れて、電話の対応で相手から差別的な発言あったら、それは差別的な発言ですよと言えるような力は、うちの職員はかなりついてると思う。特に住民課の窓口あたりは。だからわざわざ一回一回団体に相談しなくても、きちっと対応するという力はついている。報告もあるが、それはそれで正しかったんじゃないかと答えている。 バッジつけてやっていますけど、町全体としてそんなことやっていたら差別ですよということは、ある程度ですが言えるようになってくるのかなと。差別はどんどん出てきます。それを 1 回 1 回事を荒立てて毎回していたらとてもじゃないけど職員 100 人 200 人いても足りない。その辺はある程度大人の対応というか、報告なんかが必要なものは団体にもするがそれ以外なら、私がいいんじゃないか言います。なかなか難しいですけどね。 それで押さええていたら本当に正しかったのか追及されることもありうるかも知れないけれど、それはそれで正しいと思ったと言うしかない。日常的な差別発言はパワハラセクハラいろいろある。パワハラセクハラの区分がよくわからないこともありますが、そんなときもそれは直さないととか、弾みで言ったことであればあなたの意識を変えなさいとかそういったところに対応しないと、いちいちそれを問題にしてペーパーに起こして時系列に並べろとか言われても、無駄ではないけれど非常にエネルギーを費やしすぎると思う。その辺はお互いでやっていくと。 ただ学校の内部はわかりませんからね。学校で保護者が今とにかく出てくるじゃないですか。子供たちだけの意見じゃなくて保護者が言ってくるからややこしくなってしまう。 そういったことで、いじめについては町でも差別事件、差別事案というか、頻繁に起こっていると。しかしどう対応するかが問題だというふうな考え方を持っている。それはやはりある程度は腹をくくらないといけない。悪いときは悪いと言わないといけない、あなたの対応が悪いからと、これは問題になるよと。そんなところですよ。ですからそれ

	のために我々が普段の人権勉強をしているんだと思っている。 いじめについてはあるけども、起きた時点で対応していると。教育委員会まで報告されたら教育委員会も一方的に拒否することはできないでしょうからね。調査するになってしまうんでしょうね全てが。
宮崎指導主事	重大事態の場合はですね。
田頭町長	一般的な小さな話はいろいろあるでしょう。そのことによって使うエネルギーがあまりにも大きくて他の子供たちにまで影響を与えてしまう。いじめの方もよろしく願いして、お互いやはり勉強しながら行政職員も子供に対しては勉強してないと思いますけど、一般住民に対してはしっかり勉強してるということです。 それでは二つはもう説明してもらったということになりますかね。項目の1番と2番は今のような状況で、特段の解決策はありませんけれども、とにかくお互い意見交換しながらでも、絶えず情報交換というのは大事になってくるのかなと、どんなふうな対応してるのかを知るだけでも私も勉強になりますし、私どものことも少し知っていただきたいという思いです。 はい、1番2番が終わり、その他ということで、この件以外に何かこの際、町長部局にも一言言いたいとか、そういったことがありましたらどうぞ。
東野委員	先ほど言われた学校が楽しければということは本当に私もそう思います。やはり担任の先生方も子供たちのことを1人1人、家庭環境とかも把握しながらやっているけれども、なかなかうまくいかないところもあるんだけど、さっき言われたいじめも結局は授業がうまくいってる先生のクラスはやはりいじめは少ないだろうと思う。それはやはり授業の中で子供たちがうまくコミュニケーションを取れている、授業の中で取れていれば休み時間とかでも、休み時間なので全てとは言わないが、コミュニケーションが取れて自分たちで解決できる力があるということで、やはりその授業力と学級経営力といじめ不登校というのはある程度リンクしていると思う。学校の先生方というのは日々良い授業をしたい、子供たちが目を輝かせる授業をしたいというのはみんな思って教師になっている。どの先生も、そのための研修をする時間とか教材研究をする時間は私は惜しまないと思っている。その先生方が安心して出張に行ける安心して教材研究できるような、本当にこれどこも難しいんですけど、そのための人的配置というのが、これはもう教育界だけに限らずどの分野でも人材がないと言ってるけ

	れども、やはりどうしてもその人的な配置というのはもう切に願うばかり。
田頭町長	そうですね。仕事は楽しくなければ仕事ではないという話も聞いたことがあるけれども、役場の方でも、やはり職場が楽しくなければいろんなトラブルが起こるし病休も起こる。例えばですが、米配布やってますよね。あれは仕事以外ではありますけど、正直言って結構楽しくやっている。なぜかという、みんなお礼を言われるからです。こういったふうに私も職員見て回りますけども、みんな、そしてボランティアの三輪中の生徒が来てくれました。その日は寒かったんですけど、楽しいっていうですね。人に物をやることはやりやすいんですけど、それでも仕事いかんによっては楽しくなる。目的を持っておけば楽しくなるということは何でも言えるのかなと、私も正直言って町長も大変です。これを苦に考えていたらとてもやっていけないです。でもやはり時々良いことも言ってもらえるから、そんな楽しみを持っていてそんなふうに何か楽しくならなければと。当たり前の話ではありますが。 三輪小学校でみなみの里から来るクロダマルの何か発表してもらったと。その先生と会ったんですけど、やっぱり元気がいいし、はつらつとして、子供たちがしっかりその手紙を書いたりとかいろいろやる。そういったものなんだなと思った。やはり先生方も忙しいから 8 時間労働といえば、本来そうではあるが、でも本当にやりがいを感じたらその時間は関係なくなりますよね。そんな雰囲気を作るのは今非常に困難になってきたのかなと思うが、やってるところもあるんだなと。 この間志学塾という小郡市が小中学校の子供たち、それこそ手挙げ方式で希望する子供たちだけが来て、お互い将来を語ろうとか未来を語ろうと。そこで何を訓練してるかという、物を見ないで発表する訓練をやっている。我々も自分が書いた原稿であっても読みながら言うと言えど全然説得力がない。やはり物を見ないで自分の考えで頭で言うということをしないと、そんなことをしていたらみんながはつらつとしている。それはやる気がある子ばかり来てるんでしょうけど。ですから、クラスの中でも本当にやる気のあるような子を 1 人でも多く育てていけば過半数以上になれば流れができますから、非常に単純ですけど、素朴ですけど、そこは原点かなと思うところ。体験的にも思うところである。
岡部委員	春日井に研修に行かれて、皆さん「とても勉強になった」ということを言われる。そうではないときもあるかもしれないが、やはりそうい

	うチャンスを先生方に与えてもらえてるというのはとても感謝していますので、もっと人数増やしていくっていう感じに言っていただければチャンスが増えるのではないかと思います。
田頭町長	やはり研修というのはアンテナを持った先生でないと意味がない。役場で同じ。いくら同じ話を聞いても、びびっときて実行する者と、聞いてメモして報告だけする者と、やっぱり行動に移しきれぬ者でないとそれは研修に行ったとしても無駄金になる。それはもう言えるので、あなたが1年間何を研修でやってきたんだということは私自身も思っている。よそに行ったら、必ず何か一つだけ持ってくる。去年は高齢者のスマホ教室だった。だから今年はスマホ教室を入れた。必ず行ったら何か一つは、立派な話はいっぱいあるけど正直言って何個もできない。何か一つだけ入れる。職員も研修に行ったら何をあなたはやりたいんだということが研修効果だと思う。 筑紫哲也というニュースキャスターが昔いたんですが、日田で市民大学をやっていて私も行っていたんです。そしたら途中でやめると言い出したんです。なぜかという、みんな知識を得るためにここにきているだけで行動するためじゃないと、そんな勉強だったら来なくていいと言われたので確かに言われれば高齢者はしっかりメモをとってあったけど何をするような人でもなかったから、それはそれで正解だった。ぜひそんなふうに陽明学ではないけど、すぐ知識を行動に起こさないと意味がないのだろうとは思っている。 この件はこれでよろしいか。 また何かあればこういった会合はこの総合教育会議に関わらず、やっぱりやるべきだろうと思っている。教育会議はなぜやるかということと子供たちを良くするためで、これ1回で良くなるわけは絶対ないと思っているので、このように私も町長やらせてもらっていて、町長も考えを持っているということで、何かのときに一緒に研修に行きたいとか、そういった思いも持っている。よろしくお願いします。 それでは、この今日出ておりました案件につきましては、これで会議の協議事項は終了したいと思います。
石井	それでは、以上をもって本日の総合教育会議は終了とさせていただきます。お疲れ様でした。